

【第7回ゲスト】

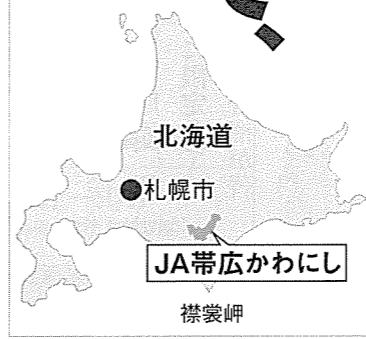
# 有塚利宣氏 上

北海道 JA帯広かわにし 代表理事組合長  
【インタビューとまとめ】

石田正昭

龍谷大学農学部教授

政治家や政策立案者がひっきりなしに訪れるJA帯広かわにし。わが国農業政策の立案に多大な影響力を持っている。畑作・畜産政策のみならず、農業の成長産業化のための六次産業化、輸出産業化への知見を絶えず求められている。その有塚組合長の素顔とは…。



## 面倒見よく、情熱を持って、相手の懐に飛び込む

### 曾祖父の開拓魂を受け継ぐ

石田 昭和六年のお生まれで、現在八四歳。非常にお元気です。その秘訣は何でしょうか？

有塚 毎日一万歩の歩行を欠かしたことはありません。それに何事に対してもひたむきに、情熱を

持って取り組んでいることが、秘訣といえるのではないのでしょうか。

石田 ご自宅の農業は息子さんご夫婦が担っておられる…。

有塚 ええ。しかしその息子(利博)も現在五七歳で、中心的に農業を担っているのは三〇歳になる孫(利一)です。家族農業の継承がきちんとできているからこそ、この年になっても組合長を続けられるのです。

わたしは北海道入植の四代目です。明治二十二年、曾祖父・利平

が香川県田中村(現在の三木町)から屯田兵として上川の永山村(現・旭川市永山地区)へ入植しました。ただ大規模農業をめざす利平にとって屯田兵は余りにも制約が多く、まずは上富良野に、次いで十勝の売買村(現・帯広市富士町)に土地を求めました。上富良野の土地は長男に任せ、本人は上富良野から帯広までの一三〇キロ近くを往復し、畑を耕してから収穫まで滞在する「通い作」を行っていました。通い作は上富良野の土地を売却する明治四十三年まで続きました。

石田 不撓不屈の開拓魂ですね。その精神が組合長まで続いているようにお見受けします。

有塚 父親(利勝)がシベリアに抑留されていたものから、長男のわたしが祖父(島次)と一緒に農業を続けました。就農は十勝農業学校(現帯広農業高校)を卒業した昭和二十三年からです。ちょうどその前年に農協法が施行

された、それから六八年が経ちました。引っぱってきた馬を休ませるには広大な土地が必要だったからです。その土地が現在の十勝農協連の財産の基礎となっていました。

石田 そうだとすると、種馬は各地区にいたのですか？

有塚 当時、十勝には種馬舎というものがありませんでした。その辺が十勝の進んだところだと思いますが、戦前から軍馬の重要産地であったために、いい種馬がいっぱいいました。フランスからペルシユロンも入っていました。そういう血統のいい馬が種馬管理農家に貸し付けられていたのですが、それを馬匹組合が買い取って、昔の駅逓のように各地の種馬舎に配置していったのです。そこへ農家が牝馬を引っぱって行って本交させると

農家は、子を産んでから何週目に発情が来るのかを知っていますから、その兆候が出たら、朝早くから種をもらうために引っぱって

石田 わたしの生まれた年です。当時は馬が重要でしたよね。

有塚 はい。わが家には三頭の牝馬がいました。そこから子を取る。子を取るの、何よりも一家の、一年の収入源でした。二歳になったら市場を持って売ります。その市場が、話は飛躍しますが、現在の帯広競馬場です。ばんば競馬で全国的に有名ですが、平成三十年にはその一角に帯広厚生病院が移転する予定です。

その馬市場は馬匹組合が一〇〇ヘクタールくらい購入して持つて



**JA帯広かわにし**  
(帯広市川西農業協同組合)

組織の概況(平成27年4月1日)

組合員数.....11,301人  
(正組合員795人  
准組合員10,506人)

役員数.....18人(うち常勤4人)

職員数.....158人

地域と農業の概況

当地区は、北海道の東部・十勝平野のほぼ中央部に位置する帯広市の南部にあり、農地約12,659ha、農家1戸平均営農耕地面積は23.9ha、専業農家では、33.8haを超える規模を有し、大規模機械化農業の先進地域。主な農産物は、小麦、豆類、てん菜、パレイショを基幹に、ナガイモ、スイートコーン、ゴボウ、グリーンアスパラ、タマネギ、長ネギなど、酪農・畜産も盛んである。

JAのデータ(平成27年4月1日)

設立 平成15年4月1日

本店所在地 〒089-1198  
北海道帯広市川西町西2線61-1

出資金.....22億7,459万円

販売品取扱額.....213億7,670万円

購買品取扱額.....130億7,708万円

貯金残高.....884億3,598万円

貸出残高.....135億1,297万円

長期共済保有高.....1,823億6,986万円

石田 当時、旧の川西農協は設立されていたのですか？

有塚 設立されていました。しかし、農協よりも強い十勝馬匹組合という組合があったのです。その強い馬匹組合に役場が関与していました。役場には馬籍係という係があつて、その係員が種馬舎を管理していました。馬産振興が農業

振興の中心だったのです。

**石田** 豆はどうでしたか。十勝は豆作が中心だったのでは？

**有塚** 豆で儲かったというのは昭和六、七年頃の話です。儲かったといっても、不在地主が儲かっただけで、小作人は何一つ儲かっていません。

いずれにしても、戦後は豆とバレイシヨ。バレイシヨは割当制で強制的に作られました。勅令（食糧緊急措置令）による命令です。それに一番先にお金になるものとして亜麻がありました。また化学繊維が世に出ていない時代でしたから。戦前、軍需産業として発展した帝国繊維株式会社が、戦後になっても華やかなりし頃の話です。当時の農協の農家数は二二〇〇戸ほど。それが今では五〇〇戸ほどに減りました。最初に辞めていったのは開拓農民でした。それに伴って川西地区でも開拓農協と農協が合併しました。次に農協と合併したのが土地改良組合です。

土地改良にはブルドーザーと技術者が必要で、そのために土地改良組合を作っていたのです。現在は農協が吸収合併しています。また、昭和二十六年に川西の住民たちが作った小水力発電所（川西電力利用農業協同組合）も昭和五十七年に農協に移管されています。設置のときはわたしも電信柱を建てて回りました。先生もご承知のとおり、今も動いています。

**石田** 話は変わりますが、組合長が農協理事になるのは昭和五十六年、四九歳のときです。でも、それ以前の昭和四十三年、三六歳のときに帯広市の農業委員になりました。ずいぶん早く農業委員になりました。

**有塚** 仲間から「おまえ、やれ」となったのです。昭和四十二年の構造改善事業で作った機械化利用組合（農事組合法人「南富士農場」）の若い一〇人の仲間たちです。**石田** でもどうして「有塚を上げよう」となったのですか？

**有塚** その頃から、わたしは、一生懸命に、嫁がしの世話をしていたからです。年上の人たちから「物好きみたいによくやってくれるわい」と、認めてくれたのだと思います。

### 情熱を持ち続けて、今がある

これは手柄話のようになります。**有塚** わたしが最初に仲人をしたのは、今はベテランになった市会議員です。その次に世話をしたのが、現在、ナガイモの生産組合の会長をしている父親です。

嫁さんたちは名古屋から来てもらいました。この嫁さんたちがこの地に新しい文化や芸術を持ち込みました。今は帯広だけではなく、広く十勝管内に住んでいます。大



が、協同の力で農業づくりを進めるためには、まずは嫁さんをもらわなければダメだと。嫁さんを自分で見つけられる若者もいるけれど、見つけられない若者には、手助けをしてやらなければいけない、となったわけです。

方がおばあさんになっていますが、「なごやか会」という組織を作って交流を続けています。名称は語呂あわせです。

中日新聞からコラムの連載をもらったので、「ダンスは下手です。口下手です。自己主張も下手です。でも農業をやらせたら、匠の技、日本一です」と書きました。

そんな男たちです。で、「あん



**ありつかとしのぶ**  
昭和6年北海道帯広市生まれ。帯広農業高等学校卒業。昭和56年平成3年、帯広農協理事。平成5年、帯広農協副組合長。平成18年、帯広農協代表理事。平成21年、帯広農協代表理事。平成25年、帯広農協代表理事。平成28年、帯広農協代表理事。平成31年、帯広農協代表理事。

た方からプロモーションを掛けてくれないか」と、一人ひとり説得に回りました。そうしたら、名古屋の人はですね、「ダンス上手、歌上手、口べらべら、こういう男は大嫌い」という女性がけっこういるのです。こういう人たちが交流会に参加してくれていたのです。**石田** それって、いつごろの話ですか？

#### 十勝農協連が連帯の拠点

十勝に限らないが、地域農業の強さの源泉は生産者の競争と連帯のバランスにあると思う。戦後の十勝農業の強さの原点は、対談でも出てきているように、馬匹組合の活動にあった。

この馬匹組合の財産を継承しているのが十勝農協連（十勝農業協同組合連合会）。道内各地にはこの種の連合会があるが、十勝農協連はそのなかでもひととき光る存在だ。現在の会長は「そのままだ豆」で知られるJA中札内の山本勝博組合長。馬匹組合の市場跡地に、帯広競馬場、直営レストラン「煉瓦亭」があるが、平成30年にはその一角に「帯広厚生病院」が移転してくる。

十勝農協連は管内24JAの連帯のシンボル。そこに事務局を置くJAネットワーク十勝の取り組みは余りにも有名だ。現在の最重点課題は、「食の安全安心」で選ばれる産地づくり。平成25年には全JA参加の「十勝型GAP宣言」を行った。（石田正昭）

も、あるいは男のほうから蹴られても、何度も何度も応募する女性がいるので、これはもう本物だという確信を持ちました。

**石田** その女性たち、今は家の主のようになっているのでは？

**有塚** 男よりも強いかどうかは、家庭内の事情もあって何ともいえません。でも彼女らのきちっとした発言力が、地域の力になっていくことは確かです。客観的にものをいう力がありますからね。

そういうするうちに、わたしも農業委員会会長を辞めることになって、後進に道を譲りました。そうしたらですね。

ことが必要です。それはもう商売と同じことです。

**石田** たまたま結婚の話になっていますが、仕事にも営農にも組合の活動にも当てはまりませんね。

**有塚** 十勝地区農業委員会連合会は十勝支庁に置かれています。そこからは「集団見合い」ではないかと揶揄されました。恥ずかしくないかというわけです。恥ずかしくいと思うのなら、あなたが「個人的に世話をしたらどうだ」と返したのですが、要するに評論はするが実行が伴わない。

当時、名古屋の北海道事務所は北海道商工部の管轄ですから、タテ割りの弊害もあるのではないかと考えて、堂垣内知事のころへ直訴に行きました。そうしたら何と知事が名古屋の交流会に来てくれたのです。「十勝はいい所です」とだけ言って、スツと帰ってしまった。それでいいのです。知事が出たことで、垣根が取れました。（以下、次号につづく）



【第7回ゲスト】

# 有塚利宣氏 下

北海道JA帯広かわにし代表理事組合長  
（インタビューとまとめ）

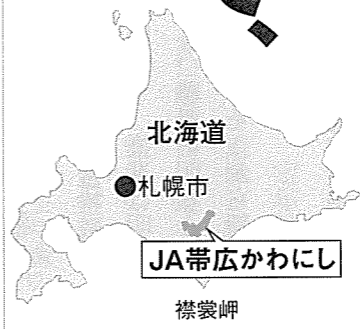
石田正昭

龍谷大学農学部教授

政府の農協改革は、農業の成長産業化を図るため、六次産業化、輸出産業化を強く要求。有利販売、有利調達は大きな課題だとしている。しかし、言うは易く行うは難し。そこにはどんな問題が潜んでいるのか、現場を疎んじる政府の盲点を実践者に語っていただいた。

## 面倒見よく、情熱を持って、相手の懐に飛び込む

### 女性が活躍する農業へ向けて



石田 その婚活、十勝だけで終わってしまったの？

有塚 他の地域でも始めました。でも、まねしても長くは続きません。その違いは情熱です。わたしは自費で名古屋へ行きましたから。

農業委員会にお金はありません。でも大会出席などで東京には年に一、二回は出かけます。どんなに忙しくても、津軽海峡を渡ったからには名古屋まで足を延ばして、中日新聞社と名古屋市役所を回っ

て、二年かけて協力を取り付けました。結婚後もまたたいへんで、何回もトラブルが起きました。トラブルを未然に防ぐというのが仲人のコツ。たいていは夫婦喧嘩ではなく、嫁姑のトラブルです。

有塚 最初は息子が運転しなければ

石田 経営は一緒です。親父の

指図で働くの？

有塚 経営は一緒。でも、話は飛躍しますが、都会から来た嫁は農業を手伝わないことが多い。子育て、炊事、洗濯だけ。主婦專業というわけです。そういう嫁たちですね、来年から「農場ゲーム」をやってもらいたいと考えています。

ばいけない。でも二回目からは自動ステアリングが作動し、自動運転できます。ただ安全上、人間がブレーキを踏むとか、補助的なアシストをしなくてははいけません。国交省がそう決めているのです。

有塚 正直にいうと、十勝の畑作う時代は終わりました。

### 高地価圧力下での酪農・畑作経営

石田 農場ゲーム？

有塚 ええ。そういう嫁たちはね、パソコン、インターネットが得意中の得意なのです。そんな得意技を活かして、トラクターに乗ってもらいたい。

石田 でも酪農家は違いますよね。有塚 そうですね。酪農家は畑作農家の倍近くは働いています。そんな状況もあるので、「畜産クラスター事業」を導入し、搾乳ロ

ボットを入れて、余暇時間を作るうとしています。

有塚 半額助成を受けても搾乳ロボットの投資が必要ですか？

というのは、二十八年度、当丁A管内にGPS基地局を設置してトラクター制御をできるようにします。通常のGPSは精度に難がありますが、基地局を設置すると精度が三センチ以内に収まり、黙っていてもまっすぐに走れるようになるのです。

石田 それなら、女性でもできるはずだ。



<b>JA帯広かわにし</b> (帯広市川西農業協同組合)	
組織の概況(平成27年4月1日)	
組合員数	11,301人 (正組合員795人 准組合員10,506人)
役員数	18人(うち常勤4人)
職員数	158人
地域と農業の概況	
当地区は、北海道の東部・十勝平野のほぼ中央部に位置する帯広市の南部にあり、農地約12,659ha、農家1戸平均営農耕地面積は23.9ha、専業農家では、33.8haを超える規模を有し、大規模機械化農業の先進地域。主な農産物は、小麦、豆類、てん菜、パレイショを基幹に、ナガイモ、スイートコーン、ゴボウ、グリーンアスパラ、タマネギ、長ネギなど。酪農・畜産も盛んである。	
JAのデータ(平成27年4月1日)	
設立	平成15年4月1日
本店所在地	〒089-1198 北海道帯広市川西町西2線61-1
出資金	22億7,459万円
販売品取扱額	213億7,670万円
購買品取扱額	130億7,708万円
貯金残高	884億3,598万円
貸出残高	135億1,297万円
長期共済保有高	1,823億6,986万円

トピック  
対談

「土地を貸してくれ、売ってくれ」という話になってしまいました。また、帯広市内の地価は一〇アール四〇万円で、牧草地を増やしたくても増やせない。一〇ヘクタール増やすと四〇〇〇万円になってしまいます。ならば、その土地は畑作に利用したほうがよい。安定性からいうと、酪農専業よりも畑作酪農のほうが向いているのです。

**石田** ナガイモは、どのくらいの収入がありますか？

**有塚** ナガイモ農家の平均面積は三三ヘクタール。畑作四品(豆、麦、バレイシヨ、ビート)をベースに二ヘクタール程度のナガイモが加わります。

畑作四品は一〇アール一〇万円程度、ナガイモは八〇万円です。売上げでいうと四七〇〇万円くらい、所得でいうと一六〇〇万円程度となります。

そんなわけで耕作放棄地もありませんし、仮に農業をやめたいという話をちよつとも洩らしたら、

よって、国内の売価が二割程度上昇し、売上げが伸びたという実績に支えられています。

また農業所得の増大という点では、輸出のみならず、加工も同じような貢献をしています。

**石田** ナガイモの加工？

**有塚** 従来、規格外品は投げ捨てたのですが、それを「とろろ」に加工して冷凍パックで食品会社に売るといった方法を導入しました。これは食品安全上リスクのある仕事なので、なかなか手が出せませんでした。これで大丈夫だとい

までの技術を確立してから始めたのです。ずいぶん時間がかかりま

ありつかしのぶ

昭和6年北海道帯広市生まれ。帯広農業高等学校卒業。昭和56年平賀農協理事。平成5年同組合代表理事。平成18年帯広市農業協同組合(全国農協連合会)の功労表彰。同年帯広市農業協同組合の功労表彰。平成21年帯広市農業協同組合の功労表彰。



「土地を貸してくれ、売ってくれ」という話になってしまいました。

**石田** バレイシヨは、カルビーと組んでヒット作が続いていますね。

**有塚** 同じ火山灰でも、うちは黒色火山灰で、イモの肌色が悪いため生食用には向きません。土幌も同じです。そこで加工に活路を見出し、こちらは相手先ブランドの自社工場、こちらはカルビーを誘致しました。隣の大正、芽室は白色火山灰なので、生食用です。

**石田** なるほどね。アズキの小袋はわが家でも買っていますよ。

**有塚** 豆類については、昭和四十七年から東京支店が小袋を全国規模で売っています。支店の維持に何億円も使っています。ただホクレンと並ぶ大手ではあっても、出荷量は全体からみればわずかで、多くは老舗の和菓子屋さんへ三〇キログラムの大袋で出ていきます。これは本店農産課の扱いです。

十勝のアズキが好まれるのは色、淡い紫色にあるんです。老舗の和菓子屋さんは餡の色にこだわり、濃い色は輸入物を使っているのではないかと疑われるので嫌います。品種改良で収量性が上がっても、餡の色が変わると売れません。で

「土地を貸してくれ、売ってくれ」という話になってしまいました。また、帯広市内の地価は一〇アール四〇万円で、牧草地を増やしたくても増やせない。一〇ヘクタール増やすと四〇〇〇万円になってしまいます。ならば、その土地は畑作に利用したほうがよい。安定性からいうと、酪農専業よりも畑作酪農のほうが向いているのです。

そんなわけで耕作放棄地もありませんし、仮に農業をやめたいという話をちよつとも洩らしたら、

よって、国内の売価が二割程度上昇し、売上げが伸びたという実績に支えられています。

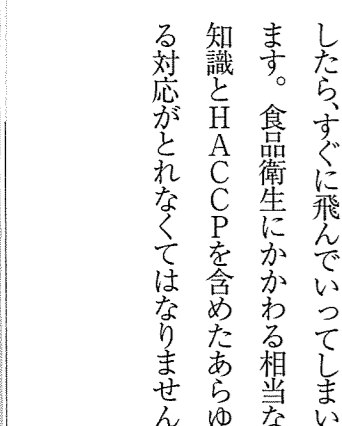
また農業所得の増大という点では、輸出のみならず、加工も同じような貢献をしています。

**石田** ナガイモの加工？

**有塚** 従来、規格外品は投げ捨てたのですが、それを「とろろ」に加工して冷凍パックで食品会社に売るといった方法を導入しました。これは食品安全上リスクのある仕事なので、なかなか手が出せませんでした。これで大丈夫だとい

までの技術を確立してから始めたのです。ずいぶん時間がかかりま

昭和6年北海道帯広市生まれ。帯広農業高等学校卒業。昭和56年平賀農協理事。平成5年同組合代表理事。平成18年帯広市農業協同組合(全国農協連合会)の功労表彰。同年帯広市農業協同組合の功労表彰。平成21年帯広市農業協同組合の功労表彰。



六次産業化、輸出産業化とは

**石田** ナガイモの種イモはどこから入れたのでしたっけ？

**有塚** 夕張からです。その選抜品種に『かわにし一号』という名前を付けました。今はそれを交配して『とかち太郎』という品種を作っています。収量が二割くらい上がるので、現在増殖中です。

もともと行政は穀物とバレイシヨの育種以外はやっていませんし、種屋さんも増殖率の悪いナガイモには手を出しません。誰もやってくれないのですから、自分でやるしかありません。JAと生産者がお金を出し合っています。

市場では、同等品であれば出荷量によって値段が決まるとい

すから、品種改良も色と収量性の両方に配慮しています。代表品種は『エリモ』ですが、今は連作障害が出にくい『きたるまん』に変わりつつあります。

う傾向があります。ですから青森とは競争ではなく、協調して需給調整をうまくやって、良い値を取ろうとしています。例えば輸出ですが、うちのナガイモが成功したのも、全体の五割くらいを台湾、アメリカなどへ輸出することに

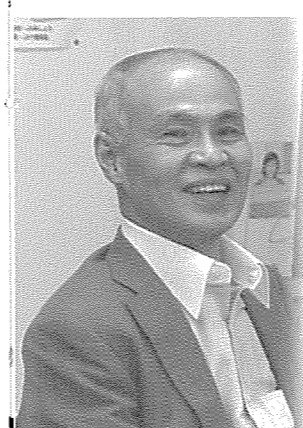
成功したのも、全体の五割くらいを台湾、アメリカなどへ輸出することに

成功したのも、全体の五割くらいを台湾、アメリカなどへ輸出することに

成功したのも、全体の五割くらいを台湾、アメリカなどへ輸出することに

成功したのも、全体の五割くらいを台湾、アメリカなどへ輸出することに

成功したのも、全体の五割くらいを台湾、アメリカなどへ輸出することに



いしだまさあき  
昭和23年生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士課程満期退学。農学博士。専門は地域農業論、協同組合論。現在、日本協同組合会会長。三重大学教授を経て、2015年4月より龍谷大学農学部教授。京都大学農学研究科(農林水産統計デジタルアーカイブ講座)研究員を併任。近著に『農協は地域に何ができるか』(農文協)、『JAの歴史と私たちの役割』(家の光協会)など。

すから、品種改良も色と収量性の両方に配慮しています。代表品種は『エリモ』ですが、今は連作障害が出にくい『きたるまん』に変わりつつあります。

的外のれ  
准組合員事業利用規制  
平成27年度通常総代会資料によると、JA帯広かわにしの正組合員は795人(529戸)、准組合員は10,506人。この529戸の中には不動産経営中心の農家もいて、「農家らしい農家」は400戸くらいとされる。市街地の拡大や広大な「帯広の森」などの公共買収で農地を売った農家も多い。合併前の旧・帯広市農協管内の農地面積は4,000haだったが、今は200haまで激減している。  
JA貯金は884億円、貸出金は135億円。農家の1戸当たり貯金は数千万円程度、借入金も大きくないとされる。そうだとすれば、正・准の信用事業利用量の比較においても、JA帯広かわにしは今後、准組合員事業利用規制の対象となる可能性がある。本当にそれでよいのか。政府の農協改革は的を射ているのか。そこを問いたい。(石田正昭)

**有塚** 有利販売をするといっても、そこには必ずリスクが隠れています。そのリスクをどう処理するのか、という手立てなしに流通短縮などできない話です。そういう観点からいうと、代金回収も問題になるわけです。下手をするとどこかに引っかけた未収金を抱えてしまい、誰かが自殺するといった悲劇を生み出しかねません。

**石田** 信用保険が必要だと。 **有塚** その通りです。無条件委託販売というのは、結局、系統利用手数料が系統の代金回収手数料に当たるものだという理解が必要で

す。これが高いか安いかは、系統外を利用した場合の取引信用保険と比較して、はじめてわかることなのです。 **有塚** かつて、うちも痛い目にあいましたからね。流通短縮を図るといっても、信用保険は系統でという対応が必要となります。(終

取材 平成二十七年十一月七日)